２９．１０．１６
杉 並 区 広 報 課

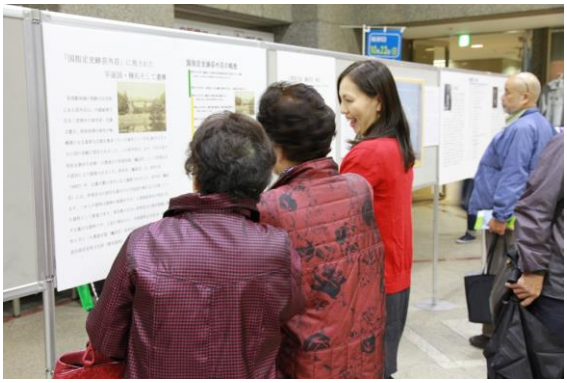
荻外荘の貴重な資料を区役所で公開

10 月 16 日、区役所 1 階ロビーでは、『「国指定史跡　荻外荘」に残された平面図・棟札そして遺構』と題したロビー展が始まり、多くの来場者が訪れ熱心に見学していました。この展示では、昭和初期の政治の転換につながるような「荻窪会談」や「荻外荘会談」が行われた荻外荘の遺構調査で発掘された龍の文様のタイルも公開しています。展示会は、10 月 20 日までです。

荻外荘は、戦前に内閣総理大臣を三度務めた近衛文麿の旧宅であり、政治史において重要な会議（荻窪会談・荻外荘会談）が開かれたことでも知られています。敷地面積は 6,071.69 ㎡あり、邸宅は築地本願寺や明治神宮などを手掛けた伊東忠太の設計で、昭和 2 年に創建されました。その建物を昭和 12 年に入澤達吉（大正天皇侍医）から近衛文麿が譲り受けました。荻外荘には伊東忠太の設計を裏付ける平面図や棟札などが残っています。

杉並区は、荻外荘の敷地及び建物を平成 26 年 2 月に取得しました。そして、平成 28 年 3 月 1 日には、国の史跡に指定されました。荻外荘の中でも、国の史跡の指定理由になった荻窪会談など当時の要人が集まって話し合いが行われた客間等は、現在は豊島区に移築されていますが、移築された建物を再び荻窪に復原・整備することを目指しています。

その客間等の復原に向けた第一歩として、平成 28 年 11 月下旬から平成 29 年 2 月の 3 か月を費やして、439.7 ㎡に及ぶ遺構確認調査を実施しました。その結果、受け継がれてきた平面図のとおり、建物の基礎部分を確認することができました。また、それと同時に、応接室の床に使われていた、伊東忠太がデザインしたと言われる、龍の文様が施されたタイルや屋根瓦、タイルなども発掘されました。この遺構確認調査時には現地が公開され、建築や歴史を研究する多くの方々が集まりました。



今回は、こうした貴重な資料をより多くの方々にご覧いただくため、初めて区役所での公開を決めました。区役所では、衆議院議員選挙の期日前投票が行われていることもあり、多くの来場者でにぎわっていました。来場者の女性は、「なんで遺構調査を行ったのですか」などと質問し、担当者の説明に耳を傾けていました。ロビー展は、20 日まで開かれます。

【問い合わせ先】教育委員会生涯学習推進課：電話 03-3311-2111　　内線 1666